



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第41回例会(5月15日)
平成27年5月22日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市築園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
例 会 日 毎週全曜日12時30分～

会 長 長澤 茂
幹 事 植山 桂
会 報 古山 明廣
クラブ事務局 TEL(653)5682
FAX(653)5622

Light Up Rotary. 「ロータリーに輝きを」.....ゲイリー C. K. ホアン

ゲスト卓話



「いのちの電話とは
—歴史と理念—」

社会福祉法人 盛岡いのちの電話 理事長
金澤 弘幸様

1 「盛岡いのちの電話」とは

盛岡いのちの電話では3台の電話で365日悩んでいる人の電話を聴き続けています。盛岡いのちの電話は開局以来2015年1月で25年目になりました。この間の受信件数は185,297件です。

2 受信内容

・盛岡いのちの電話

12:00～21:00

(但し日曜日 12:00～18:00)

(電話2台電話番号 019-654-7575)

・自殺予防いのちの電話

毎月10日 8:00～翌朝8:00

全国のいのちの電話が、毎月10日に、フリーダイヤルで、受ける自殺予防を目的とした電話、「盛岡いのちの電話」でも1台の電話で受信に参加しています。

[0120-738-556 (全国共通番号)]

・インターネット相談

試行開始2011年1月から、2012年1月から本格稼働(月3回3時間)

近年、20代、30代からの電話が大都市圏などで減少し始めています。電話によるコミュニケーションが苦手の層が増加していると考えられ、東京、千葉等でメールによる相談を開始しました。(東京、仙台、奈良、福岡、盛岡、愛媛、埼玉等で実施)

3 「盛岡いのちの電話」の活動状況

- ・1991年1月「盛岡いのちの電話」開局、東北で仙台に次ぐ開局です。今年で25年目になります。
- ・1993年11月「盛岡いのちの電話後援会」結成
- ・1997年3月 社会福祉法人の認可を受ける。
- ・「盛岡いのちの電話」の概要
- ・受信体制(2015年1月末現在)
延べ認定者202人
(外に他センターからの転入2名)
在籍認定者数126人(転出、退会者により)
実働者73人
(家庭の事情、病気等による休務者がある。)
- ・認定後も年に10回程の研修を受けながらボランティアを続けています。自分自身に悩みがありしっかり傾聴できないときは休むことができます。
- ・研修を続けながら、当番を決めて、心を落ち着けて電話を受け続けるボランティアの皆さん一人ひとりによって、いのちの電話は支えられています。
- ・昨年2014年の受信件数は12,162件でした。
男性6,919件 女性5,243件
(これまで、最多だった昨年より947件の減少)
内自殺志向の電話1,089件(9.0%)
男性517件 女性572件
- ・現在の受信体制では年間12,000件～13,000件の受信が限界と考えられます。
- ・対話の内容は病気、貧困、失業、孤独などい

ろいろです。悩みを聴くことが悩んでいる人の心の支えになります。そして、悩んでいる人は、誰かに自分の考えていることを認めてもらうことで、自信につながり立ち直るきっかけになると言われています。自殺志向の回避にもつながります。

- ・社会の変化によって悩みの内容も変化しています。いのちの電話は電話による対話で、電話を掛けてくる人も聴く人も、お互い匿名が原則ですので、考えていることが素直にでてくる傾向があり、社会の変化による一人ひとりへの影響が顕著に現れると言われています。
- ・開局当時は、家族間の悩みや病気などが多かったのですが、近年は、うつ病、統合失調症など精神を病んでいる人たちからの電話が多くなっています。

4 「いのちの電話」の歴史

- ・1953年ロンドンにチャド・バラ師によって「ザ・サマリタンズ」が設立される。
- ・1963年シドニーでA・ウォーカー師が「ライフ・ライン」を設立、以後、世界の1,000余の都市で活動を展開

5 日本の「いのちの電話」について

- ・1969年 宣教師ルツ・ヘットカンプさんが開設提案、検討始まる。
- ・1971年1月 事務局開設、10月「東京いのちの電話」活動開始（24時間・365日受信体制）
- ・1977年「日本いのちの電話連盟」の結成（世界の活動と連携するが独自の運動を展開する。）
- ・2009年9月 一般社団法人化、「一般社団法人日本いのちの電話連盟」となる。
- ・「日本いのちの電話連盟」の役割
 - (1)センター設置についての認定基準に基づいた審査（各「いのちの電話」はそれぞれ自主的に運営される。）
 - (2)全国規模の研修大会の開催
 - (3)2001年から「フリーダイヤル自殺予防いのちの電話」を実施（厚生労働省の「自殺防止」事業の補助事業）当初、毎年12月1日～から7日までの7日間実施、2007年9月からは毎月10日の実施に変更
 - (4)メール相談の実施
- ・「日本いのちの電話連盟」の概要（2013年実

績）

開局センター：60センター（内10センターは分室）

全国の「いのちの電話」：50団体（内社会福祉法人41団体 NPO9団体）

24時間体制のセンター：24センター（常時）、6センター（曜日限定）

相談員認定者数

6,725名（男1,201名 女5,524名）

相談状況（2013年1月～12月）

年間相談件数

756,537件（1日平均2,073件）

（男性379,365件 女性377,172件）

自殺志向件数：82,945件

（男性33,093件 女性49,852件）

（自殺志向は総受信件数の11% 前年比1.7%増）

- ・東北地区 仙台（1982年開局）、盛岡、山形、あおもり（弘前）、福島、秋田

6 「いのちの電話」の基本的考え方

- ・自殺志向を始め、精神的危機にある人達の隣人になりたいという願いから生まれたボランティア活動です。
- ・電話で一人一人と対話することを手段とする活動です。
- ・思想的、宗教的立場からは自由で、お互いの価値観を尊重することによって、人の心に新しい連帯を生みだしたいと願っている活動です。
- ・「いのちの電話」で話される内容のプライバシーは守られなければなりません。かけ手も受け手も匿名です。私が電話ボランティアだとも言いません。
- ・「いのちの電話」は自ら進んで奉仕しようとするボランティアによって支えられます。いのちの電話の運営も民間の手によって運営されるのが原則です。（報酬はありません。研修の受講も自己負担です。）
- ・「いのちの電話」は自殺志向や悩みを聴くことによって自殺予防に役立つことが本来の目的です。

7 「盛岡いのちの電話」の電話ボランティアになるには次の4課程の研修を受け、電話ボランティアとして認定されなければなりません。

- ・公開講座（第1課程）

- ・人間関係基礎訓練（第2課程）
- ・ロールプレイ等実習（第3課程）
- ・電話実習・研修（第4課程）
- ・認定されてからもボランティアを続けるためには研修を受けます。

8 「いのちの電話」の特色は「聴く」と「研修」です。

- ・よき隣人として聴く
- ・素人のボランティアとして相手と同じ対等な立場で聴く
- ・電話の声だけの関係で聴く（聞くではありません。）
- ・掛け手が自分で解決していくための援助（解決方法や、積極的な指示をしない。）
- ・電話を掛けてくる一人一人の孤独や人間性、価値観を認め理解するための研修（距離をおいて聴くことも研修します。）
- ・自分の自己主張の癖をしっかりと自覚するなど自分自身を知るための研修

9 「盛岡いのちの電話」は運営組織、事務処理、事業内容の公開、行政による監査等社会福祉法人のルールに従いしっかりと運営していくことが、永続的ボランティア活動の基盤と考えています。

- ・運営組織：理事会、評議委員会、後援会（資金ボランティア）
- ・研修組織：研修委員会、専門家による公開講座の開催・研修の実施
- ・ボランティア会：電話ボランティアの皆さんの会
- ・盛岡いのちの電話後援会：（資金面等の支援組織）、これまでにご支援いただいた後援会
会員数：法人・団体会員約200名、個人会員約500名
運営費：年間約1,000万円、後援会会員や一般の方々の寄付が90%、及び各種団体からの補助金、事業収入等
- ・その他の活動：後援会主催によるチャリティコンサート・チャリティバザーの開催、市民対象の公開講座開催、事業要覧の発行、広報誌の発行（年4回）

10 日本および岩手の自殺の現状といのちの電話の役割

(1)全国の自殺者は厚労省人口動態統計によると、

1998年から年間3万人を超えていましたが、2013年は26,038人で、2012年、2013年とここ2年は連続3万人を下廻りました。2014年については警察庁の発表がありました。警察庁は厚労省の人口動態統計と基準が異なりますが25,374人と1997年の24,000人以来17年ぶりの低水準でここ3年自殺は減少傾向です。

- ・「内閣府自殺対策推進室」では自殺は精神科医療の問題だけではなく、働き方や、経済状況など社会全体にわたるいろいろな問題によって引き起こされるものであり、社会的要因も踏まえて総合的に取り組むべきであるという方針を示しています。そして、近年、行政では、いろいろな施策を実施しています。
- (2)岩手県警発表の2014年中の岩手県の自殺者は374人で2013年に比べ1人増でした。2012年は大幅に減少しましたが2013年14年は微増の状況にあります。
- ・東日本大震災の被災地である岩手県は自殺の増加が危惧されています、被災後3年ごろから、仮設住宅生活の長期化、復興過程における格差の影響などによる自殺の増加が懸念されることもあり、行政では自殺対策に力を入れています。
- ・本県においては久慈地区の自殺対策モデルを県内に拡大するなど、平成20年度からは「岩手県自殺対策推進協議会」の会長に達曾知事が就任し他県に一步先行して自殺対策に取り組んでいるところです。
- ・特に震災被災地域における精神保健については他県から多くの専門の要員を導入して対策に力を入れてきました。
- ・「盛岡いのちの電話」は開局時から啓発活動等の自殺予防にも積極的に関わっています。
- ・悩んでいる人の話を聴くことが自殺を防ぐ大きな力になると言われています。「盛岡いのちの電話」も自殺予防に関わる各組織のネットワークに民間団体の立場で参加し役割を果たすこととなります。

11 いのちの電話に関わっていく時

- ・自分の生活をキチンとした上でのボランティア活動、休むことが認められます。
- ・公開講座を受けて電話ボランティアを希望するときは、希望理由、わたしの生き立ちなどを提出いただき、心理テスト・面接後第2課